



# 3分でわかる! 銀鮒の里学校



「銀鮒の里学校」をはじめて聞いた、という方は、こちらからお読みください。

ESDってなに?銀鮒の里学校って、ほかのフリースクールとなにが違うの?

誰にでも、新しい学校について、すぐにわかるように、わかりやすく解説しています。

## **銀鮒の里学校って、どんな学校?**

銀鮒の里学校は、学校教育法に基づく学校ではなく、教育機会確保法に基づく、小学生と中学生を対象としたオルタナティブ・スクール(代替教育学校)です。2020年度、岩手県内における当校最初のオルタナティブ・スクールの開校をめざして、現在、準備を進めています。

オルタナティブ・スクールでは、学校教育法に基づく学校とは異なり、子どもたち一人ひとりの個性を最大限に引き出すことのできる、ユニークなカリキュラムを実践しますので、それぞれの子どもにとって最適となる学びの場を提供することができます。銀鮒の里学校の場合は、人のぬくもりたっぷりの昭和中期頃の日本の教育をベースとし、これに現代の世界の最先端の教育メソッドとをバランスよく折衷した「昭和のくらしESD」(銀鮒の里教育)に基づくカリキュラムを実践します。

実際にはオルタナティブ・スクールに通学するという通学形態をとります。オルタナティブ・スクールへの通学により、小学部では小学校の、中学部では中学校の卒業資格を得ることができるようになっています。

## **市民として「こうでありたい」を実現する学校**

銀鮒の里学校は、市民感覚(民主意識)を育てる学校です。

子どもは教職員など、まわりの大人をみて育ちます。その大人が、校務のことなどでストレスを抱え、子どもたちのためにやりたいことができずにイライラしていたりしたら、子どもたちはどのように育つでしょうか。

銀鮒の里学校は、なにより、学校づくりや運営にかかわる、子どもの周りの大人が、子どもたちのために輝けるべきであると考えています。そのためには、各主体が子どもたちのためにしてあげたいと思う教育を実現できるようにすることが大切です。子どもたちとともにあそんだり、学んだりして、教職員と児童生徒との分け隔てなく、ともに輝きながら、バランスのとれた市民感覚を自然に身に付けていく学校、それが、銀鮒の里学校の目指す学校像なのです。

あなたが銀鮒の里学校でやってみたいことについて、語ってみてください。

## **「真に純粹であること」が最も重要**

銀鮎の里教育で最も重要な態度、それは、本物や正しいこと(真)をしっかり認識したうえで、純粹に考えて行動する態度です。

どうしても大人は「清濁併せのむ」という固定観念にとらわれがちですが、そのような傾向が強い人ほど、銀鮎の里教育は難しく感じられるものです。なぜなら、その固定観念が邪魔をするために、余計なことを勝手に考えてしまうからです。

逆に、正義感が強く、道理に反したことが認められないというような市民運動家気質の強い人にとっては、これほどシンプルでスマートな教育メソッドはないものです。なぜなら、正しいと信じることを正直にやり続ければいい、基本的にはそれだけだからです。

現実世界のほんものに六感<sup>\*</sup>で触れながら、多面的に捉え、考えているありのままのことを表現し、対話するということの繰り返し。これが、銀鮎の里学校の能動学習(アクティブ・ラーニング)の基本スタイルです。

※六感=視覚(目)・嗅覚(鼻)・聴覚(耳)・味覚(口)・触覚(手などの皮膚)・管覚(のどから肛門まで)

**余計な思い込みを捨て、こどものために正しいと思うことは正々堂々とやる。それが基本です。**

### ほんもの教育のイメージ

真(True)	偽(False)
(真正)現実世界	仮想現実世界(VR)
昔あそび	商業ゲーム
自然界の動植物	商業ゲームの架空キャラクター
自然の甘み	合成甘味料
無垢の国産材の木肌	人工的な素材にプリントされた木目
本物の花の香り・人(子ども)のにおい	柔軟剤などの合成香料
受容	棄却

**真に昭和の頃に親しんできたものやことが多く、偽に商業的なものやことが多いことにご注目ください。**

## **地方で豊かに生き、地方を元気づける人を育てる学校**

銀鮎の里学校は、まるで現代の寺子屋のような、地方創生の学校を目指します。

世の中の価値観は、日々刻々と変化しています。それと合わせるように、産業の構造も考え方も、日々刻々と変化しています。衰退する産業がある一方で、これまでは誰も予想すらしなかったような新産業も次々と創出されています。

商業的なものやことへの依存は、知的生産性を低下させ、都市への人口流出や地方の活力低下を招いてきました。さらには、世界的な富の偏在を招き、戦争や児童労働、環境破壊など、持続可能性に関するさまざまな国際問題の原因にもなっています。

銀鮒の里学校では、手づくりの本物に触れることを基本とした脱商業主義の教育で、自分たちのものやことは自分たちで創り出すという市民社会(コミュニティ)精神を育てることで、地方創生の即戦力となる人間力のある人財を育成します。

**地方だからこそ実現できる、しなやかで強い人間を育てる教育があります。**

## **なぜ「銀鮒の里」?**

性格が温和で集団でなかよく泳ぐ、生命力が強い淡水魚「銀鮒」は、「平和」「ねばりづよさ(活動家精神)」「市民社会(健全なコミュニティ)」などの象徴です。里とは、「(人が)集まる場所」という意味です。

## **まとめ**

いかがでしょうか。

銀鮒の里学校は、本物や正しいことに触れて考える、豊かな現実体験を通じて、純粋で主体的な市民感覚を育む学校であることをご理解いただけましたでしょうか。

公式ウェブサイトや公式ブログ「銀鮒の里 市民智の杜」では、さらに詳細のことについてご説明しております。

銀鮒の里学校の教育活動に関心をお持ちいただきましたら、ぜひ読み進めてみてください。

## **この文書の著作権について**

この文書には、著作者(許諾者)である銀鮒の里学校が、CC BY-NC-ND 4.0(表示 - 非営利 - 改変禁止)のクリエイティブ・コモンズ国際ライセンスを付与しています。このクリエイティブ・コモンズ国際ライセンスの詳細については、下記の URL をご参照ください。

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja>